

浜風 通信

第27号
発行：神奈川県藤沢土木事務所
住所：茅ヶ崎市汐見台1-7
電話：0467-58-1473
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ex5/kaigan/chigasaki.html

第14回協議会
平成30年3月17日
(16:32~19:12)

- 【主な議題】
- I 茅ヶ崎中海岸の養浜事業の評価
- II 養浜環境影響調査の報告
- III 今後の海岸保全事業の進め方

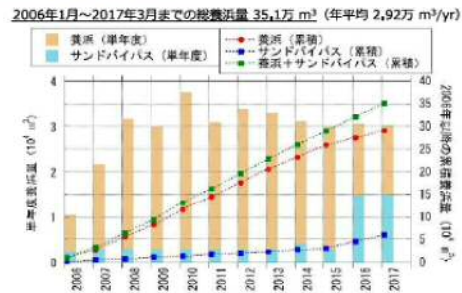
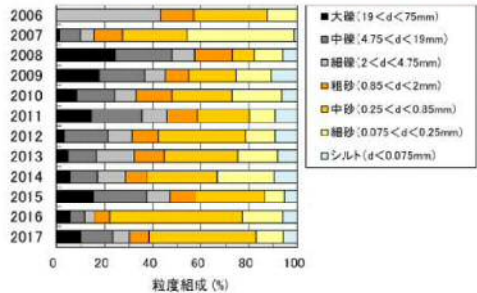


図-2 養浜材の粒度組成

図-1 中海岸の養浜実績

はじめに、神奈川県では、平成30年3月17日に第14回協議会を開催しました。まず、「茅ヶ崎中海岸の養浜事業の評価」として、茅ヶ崎海岸の養浜実績、養浜後の地形、計画幅の達成状況と防波堤の維持管理、計画幅の達成状況の養浜事業評価について報告がなされました。砂浜は回復しつつありますが、今回は台風21号の影響が大きかったことが報告されました。次に、「養浜環境影響調査」について、相模湾試験場前川主任研究員から養浜区における水質や底質、底生生物調査、底質と底生生物の分析結果より求めた合成指標、ならびに水中画像調査の結果について報告がありました。各項目の調査結果と、水質と底質に関する環境評価したところ、特に問題はありませんでした。

最後に、今後の海岸保全事業の進め方について、事務局より報告がありました。茅ヶ崎海岸の養浜事業は、計画幅が目標に比べて10mほど足りない現状の上で、養浜の短期変動を考慮し、平成31年度までに、養浜材を細かくすることである程度流出が予想されるため、工期を平成35年度まで延長することも考えられていること等報告がありました。以上を報告内容について、意見交換を行いました。

(1) 茅ヶ崎中海岸の養浜事業の評価

① 養浜の実績と地形変化

茅ヶ崎中海岸では、2006年1月から2017年3月までに約35万m³の養浜を実施しています。なお、養浜材は、茅ヶ崎漁港西側からサンドバイパスを経由した約15万m³を昨年度と同様に採取することによる地形への影響は見られません。

図-1は、養浜実施開始の2006年から2017年までの中海岸における養浜実績を年度別にグラフ化したものです。養浜は、2008年度から3万m³投入しており、2016年度から茅ヶ崎漁港西側からのサンドバイパスの量を増やし、相模ダムからの養浜量とほぼ同量の分配で行っています。図-2は、中海岸における養浜材の粒度組成を示しています。茅ヶ崎漁港西側からのため、中砂の成分が占める割合が多くなっています。

第14回茅ヶ崎中海岸侵食対策協議会

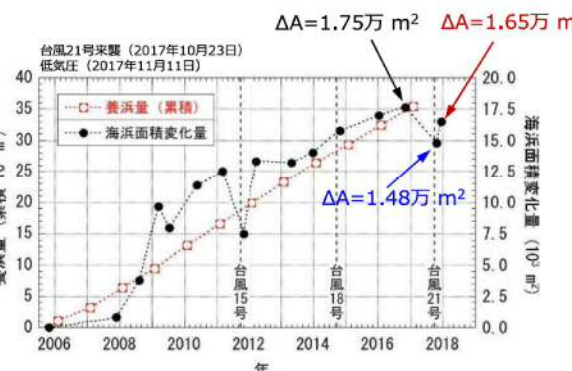


図-5 実績養浜量と海浜面積変化量

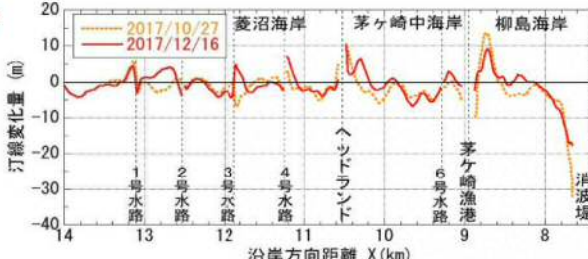


図-4 台風21号後の汀線変化

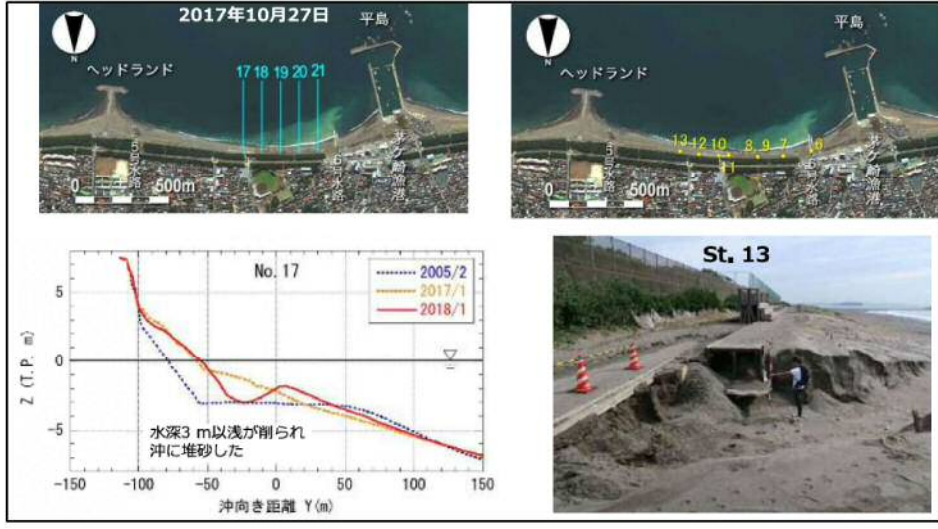


図-3 台風21号の被害状況と影響

② 養浜後の来襲波浪と台風21号の影響

2017年10月23日に来襲した台風21号の被害は大きく、8mを超える大波、小田原の検潮所では高潮氾濫を越えました。また、中海岸において、自転車道の際まで波が遡上し、ヘッドランド東側の養浜海岸では、一部自転車道が崩壊しました。この高波浪により、海面下では水深3mより浅い箇所まで砂が削られ、沖に堆積しています。この高波浪により、沖の西側の汀線は全域で後退しましたが、汀線付近に留まる礫の安定性と養浜盛土からの土砂供給により、柳島消波堤東側をのり、一部を除き後退した汀線が戻りました。

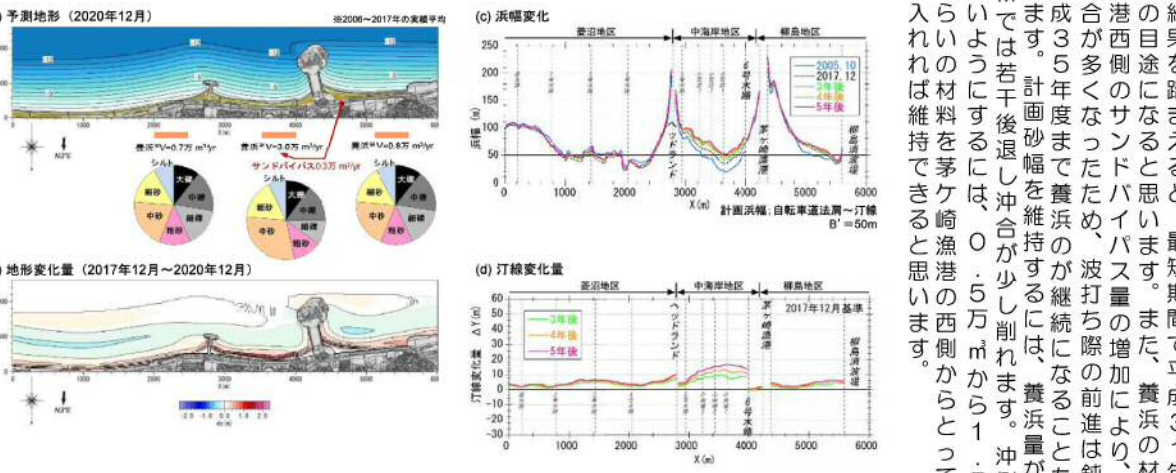


図-7 2022年まで養浜をした場合の変化予想

(1) ④ 計画浜幅達成までの養浜と維持管理

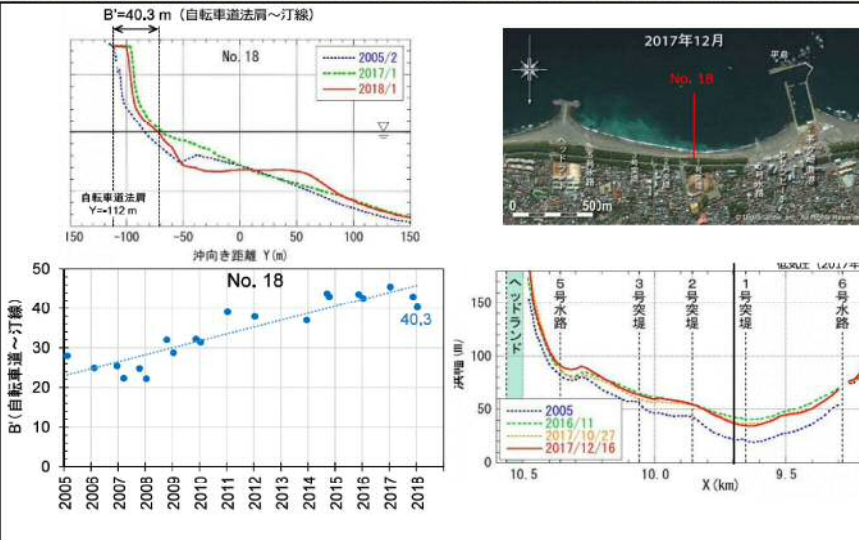


図-6 中海岸中央部 (No. 18) の現状

③ 計画浜幅の達成状況と防護機能評価

2018年1月時点の海岸中央部 (No. 18) の計画幅を達成していません。計画幅は達成していませんが、沖合の堆積により防護水準は満足しています。一方、2018年1月時点では、台風21号により水深2.3mに深みが形成されているため、地形を基に計算した結果では波高4m以下の波がバーを通過して汀線付近で破碎し、波の打ち上げが高くなります。

